

重症心身障害児・者に対する気管切開術および声門閉鎖術後長期経過

の検討に関する臨床データの研究利用についてのお願い

研究の概要・背景

重症心身障害児・者は気道狭窄や人工呼吸器管理のため気管切開術を要することが多いです。一方で筋緊張異常、側弯など多様な身体的特徴を有するため、気管切開術後に気管孔肉芽や狭窄、重篤な場合には気管腕頭動脈瘻を生じることがあります。当院では気管切開術後長期経過した症例においてはCT画像による気管腕頭動脈瘻リスク評価を行っています。本研究では気管腕頭動脈瘻などの術後合併症の有無やそのリスク因子を後方視的に検討します。

また、重症心身障害児・者は重度の嚥下障害を伴う例も多く、その管理が生命予後や介護の上で重要です。当院では誤嚥性肺炎を反復する症例や頻回の吸痰処置を要する症例においては、誤嚥防止術として声門閉鎖術を行っています。本研究では声門閉鎖術の治療効果や合併症についても長期経過を検討いたします。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

電子カルテに保存されているデータ（性別、年齢、原疾患、術式、治療成績、気管腕頭動脈瘻などの術後合併症の有無、内視鏡・CT画像など）を使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。

対象者・期間

気管切開術または当院で声門閉鎖術を施行された重症心身障害児・者の患者様を対象とします。期間は承認日より5年間です。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当医師：耳鼻咽喉科 孔憲和・高橋奈央

〒940-2085 新潟県長岡市千秋2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)